**西谷　みさを （にしや・みさを）**

**１、プロフィール**

70有余年の長い柳歴を誇る、川柳界の重鎮。初めみちのく吟社に拠って、後に津可呂川柳社を興す。制作・普及・後進育成と精力的活動を続け川柳王国青森県の一翼を担う。

＜生没＞

1903（明治36）年２月１日 ～ 1994（平成６）年５月３日

＜代表作＞

川柳句集『洗い髪』

＜青森との関わり＞

青森市米町に生まれる。青森市で津がろ川柳社を主宰。47年青森市文化表彰、51年文化賞受賞。

**２、作家解説**

柳人。明治36年青森市米町に生まれる。本名圭介。青森県師範学校付属小学校、続いて同男子付属小学校高等科に進む。ここで俳句制作を習い、文学的萌芽を育てる。中学進学の件で、家業専念の意を持つ父圭一と曲折があり、退学。その後、資格検定に合格し、大正11年明治大学経済学部に入学するが、翌12年父の病気のため、退学帰郷。この頃、淡谷しづくの善知鳥（うとう）吟社に参加、漁火の雅号で俳句に励んだ。同人の一人が川柳に熱して俳句を怠るようになったため、談判説得に行くが逆に川柳制作を説得されて転向、俳人から柳人となった。

大正10年、井上剣花坊の影響で川柳に本格的に興味を持つ。大正13年、みちのく吟社青森支社設立。同年、みちのく吟社本社の同人にもなる。昭和３年、あくた川柳社を設立主宰、柳誌「あくた」発行。昭和５年、津がろ（津可呂）川柳社を結成。これは、青森市内の各川柳社が合同したものである。機関誌『川柳津がろ』を発行。

42歳、敗戦。この後、ますます精力的な活動がなされていく。23年、ＮＨＫラジオ青森放送局の川柳講座を担当。25年１月から川柳コント合戦の放送に出演。26年、編著『青森県川柳句集』刊行。30年、東奥日報時事川柳欄の選者。38年、川柳句集『洗い髪』刊行。同年、長年の精進と貢献が認められて、後藤蝶五郎賞が贈られる。41年、東奥日報社より、柳壇選者としての功績で感謝状。47年、青森市文化表彰。51年、青森県文化賞受賞。63年、地域文化文化功労者。平成６年５月３日、永眠。青森市「文芸のこみち」に「たゆたうてやがて花びら又流れ」の句碑が建つ。

一握りしかない母の洗い髪（『洗い髪』）

**３、資料紹介**

〇『洗い髪』

図書

1963（昭和38）年８月１日

220mm×160mm

津可呂川柳社(青森市)発行。40余年の柳歴の520句を収める集成。人生の大半を川柳に捧げた著者のほぼ全容が見渡せる。また、川柳の無限の広がりと味わいの深さがうかがわれる。本県柳人に待望された柳句集である。巻末に著者の発行時までの柳歴を付す。